

令和3年度

**協働によるまちづくりに関する
市民意識アンケート**

報 告 書

調査概要

目的	市民の「協働」に対する考え方やまちづくりへの参加状況の把握のため
調査対象	弘前市民（2,000人）※無作為抽出
調査方法	商工労政課が実施した「弘前市中心市街地に関するアンケート」に本アンケートを同封し、返信用封筒で回答
調査期間	令和4年2月14日（月）アンケート送付 回答締切：～2月28日（月）
回答者数	775人（回答率38.8%）

目次

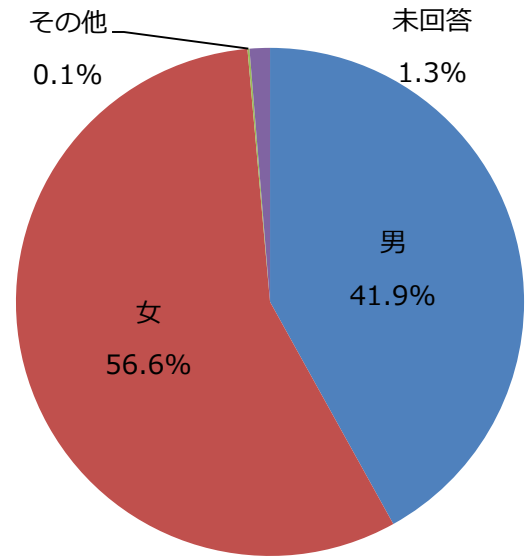
◆回答者について	02
◆条例の認知度	04
◆市政運営や市の事業への参加について	06
◆まちづくり（市民活動）への参加について	07
◆まちづくりに対する考えについて	10
◆弘前市の協働に関する取り組みについて	12
◆自由意見	13

回答者について

※構成比の合計は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならない場合があります。

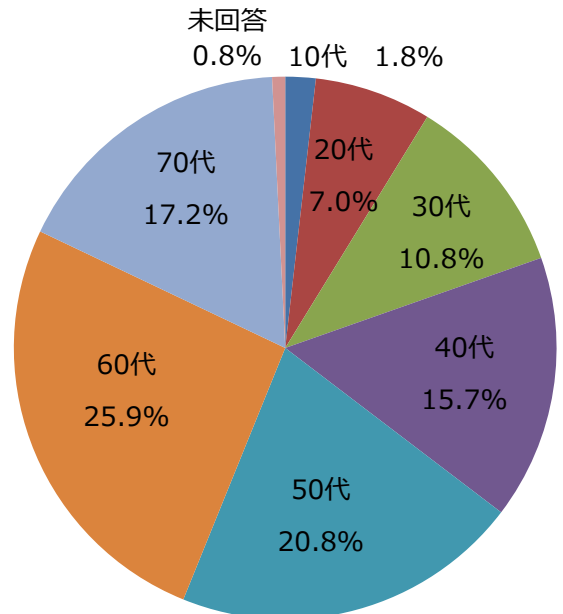
性別

	人数	構成比(%)
男	325	41.9
女	439	56.6
その他	1	0.1
未回答	10	1.3
合計	775	100



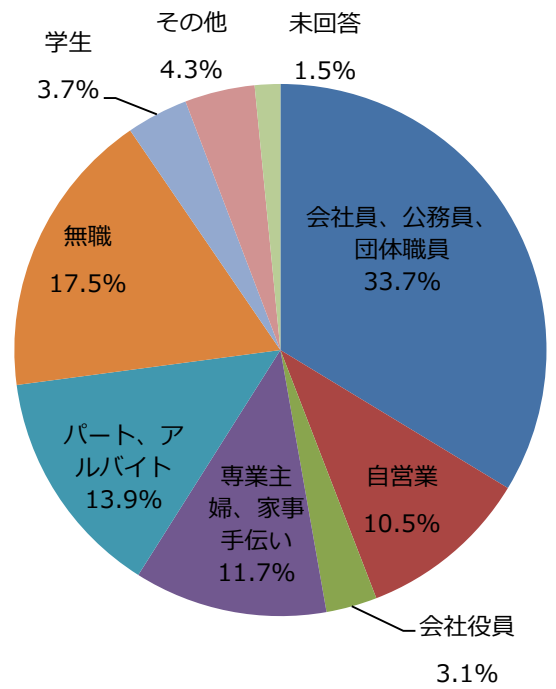
年代

	人数	構成比(%)
10代	14	1.8
20代	54	7.0
30代	84	10.8
40代	122	15.7
50代	161	20.8
60代	201	25.9
70代	133	17.2
未回答	6	0.8
合計	775	100



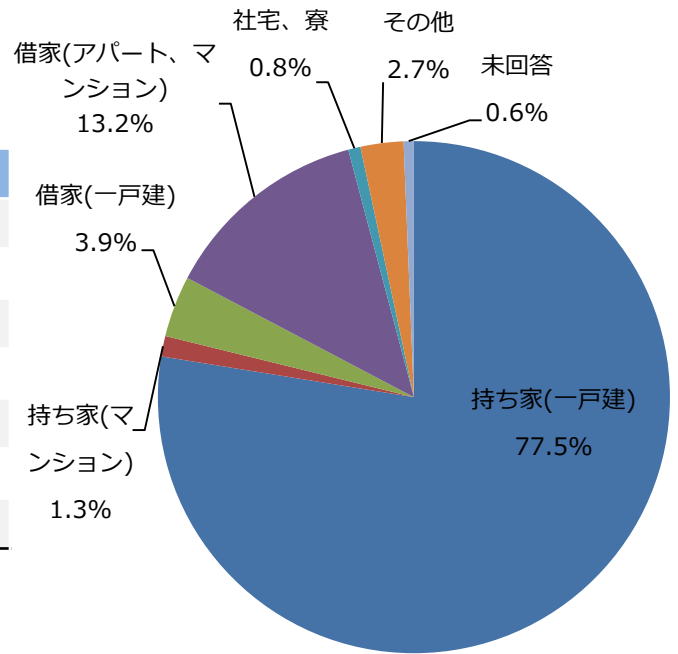
職種

	人数	構成比(%)
会社員、公務員、団体職員	261	33.7
自営業	81	10.5
会社役員	24	3.1
専業主婦、家事手伝い	91	11.7
パート、アルバイト	108	13.9
無職	136	17.5
学生	29	3.7
その他	33	4.3
未回答	12	1.5
合計	775	100



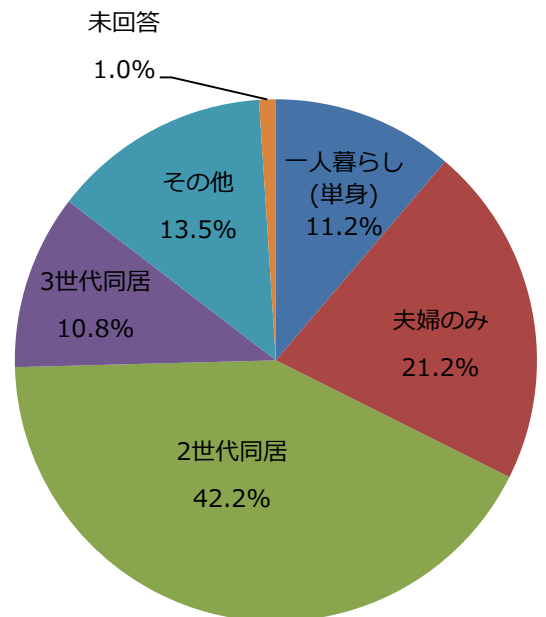
お住まい

	人数	構成比(%)
持ち家(一戸建)	601	77.5
持ち家(マンション)	10	1.3
借家(一戸建)	30	3.9
借家(アパート、マンション)	102	13.2
社宅、寮	6	0.8
その他	21	2.7
未回答	5	0.6
合計	775	100



家族構成

	人数	構成比(%)
一人暮らし(単身)	87	11.2
夫婦のみ	164	21.2
2世代同居	327	42.2
3世代同居	84	10.8
その他	105	13.5
未回答	8	1.0
合計	775	100



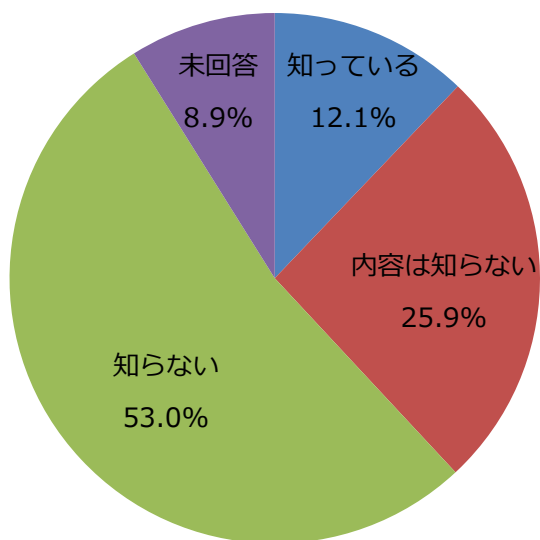
条例の認知度

※回答比率の合計は小数点第2位を四捨五入しているため、100%にならない場合があります。

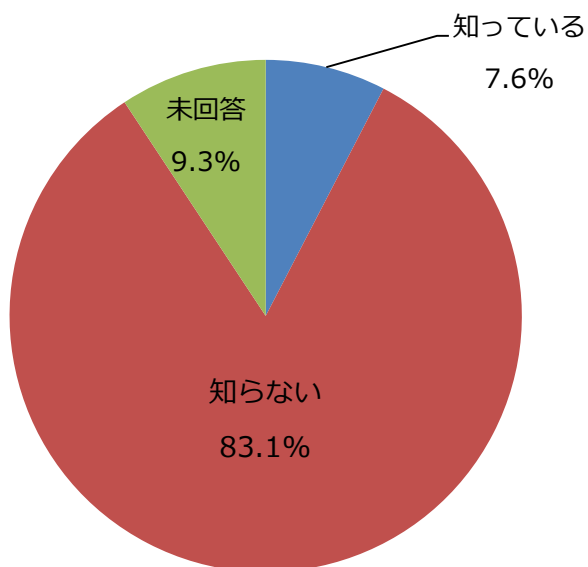
問1 「協働」という言葉の意味を知っていましたか。

回答	年度		
	R1	R2	R3
知っている	88 11.4	88 10.1	94 12.1
言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない	182 23.5	234 26.9	201 25.9
知らない	439 56.8	463 53.2	411 53.0
未回答	64 8.3	85 9.8	69 8.9

上段：回答数
下段：回答比率



問2 「弘前市協働によるまちづくり基本条例」が制定されていることを知っていますか。



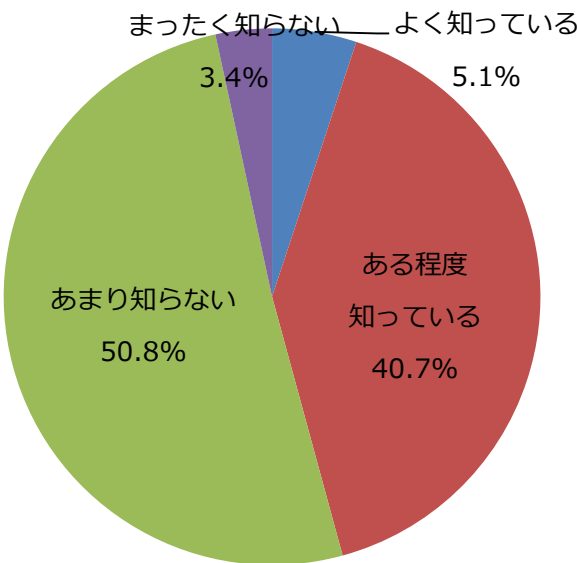
上段：回答数
下段：回答比率

回答	年度		
	R1	R2	R3
知っている	61 7.9	51 5.9	59 7.6
知らない	642 83.1	731 84.0	644 83.1
未回答	70 9.1	88 10.1	72 9.3

問3 問2で「1. 知っている」と答えた方にお伺いします。条例の内容を知っていますか。

上段：回答数
下段：回答比率

回答	年度		
	R1	R2	R3
よく知っている	4	2	3
	6.0	3.4	5.1
ある程度知っている	25	23	24
	37.3	39.7	40.7
あまり知らない	29	26	30
	43.3	44.8	50.8
まったく知らない	9	7	2
	13.4	12.1	3.4

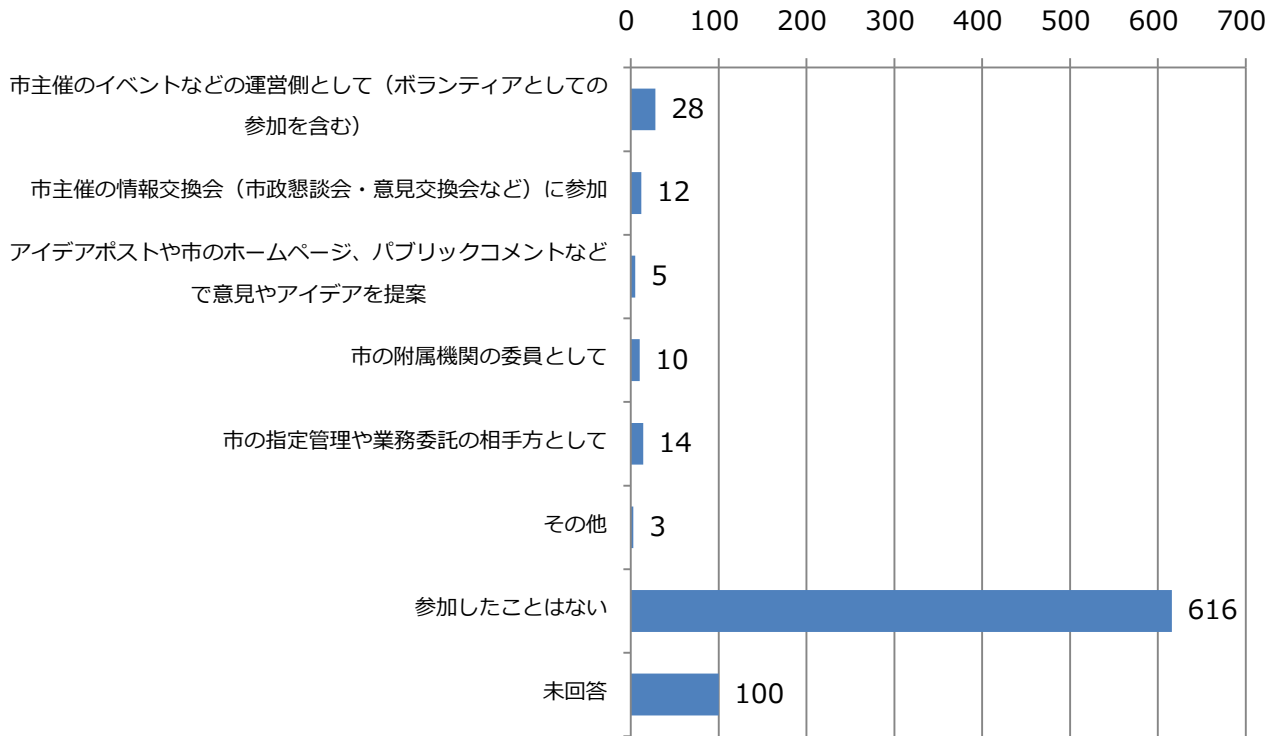


【調査結果(問1～3から)】

- ◆協働という言葉の意味を「知っている」と答えたのは全体の12.1%で、条例の制定については、「知っている」と回答した人は7.6%となりました。市民に対して、まだまだ浸透されていないことが伺えます。
- ◆市が進めている協働によるまちづくりの基本理念などを、引き続き市民に対して周知することが必要です。

市政運営や市の事業への参加について

問4 市政運営や市の事業に参加した（現在、参加しているのも含む）ことはありますか。（〇はいくつでも）

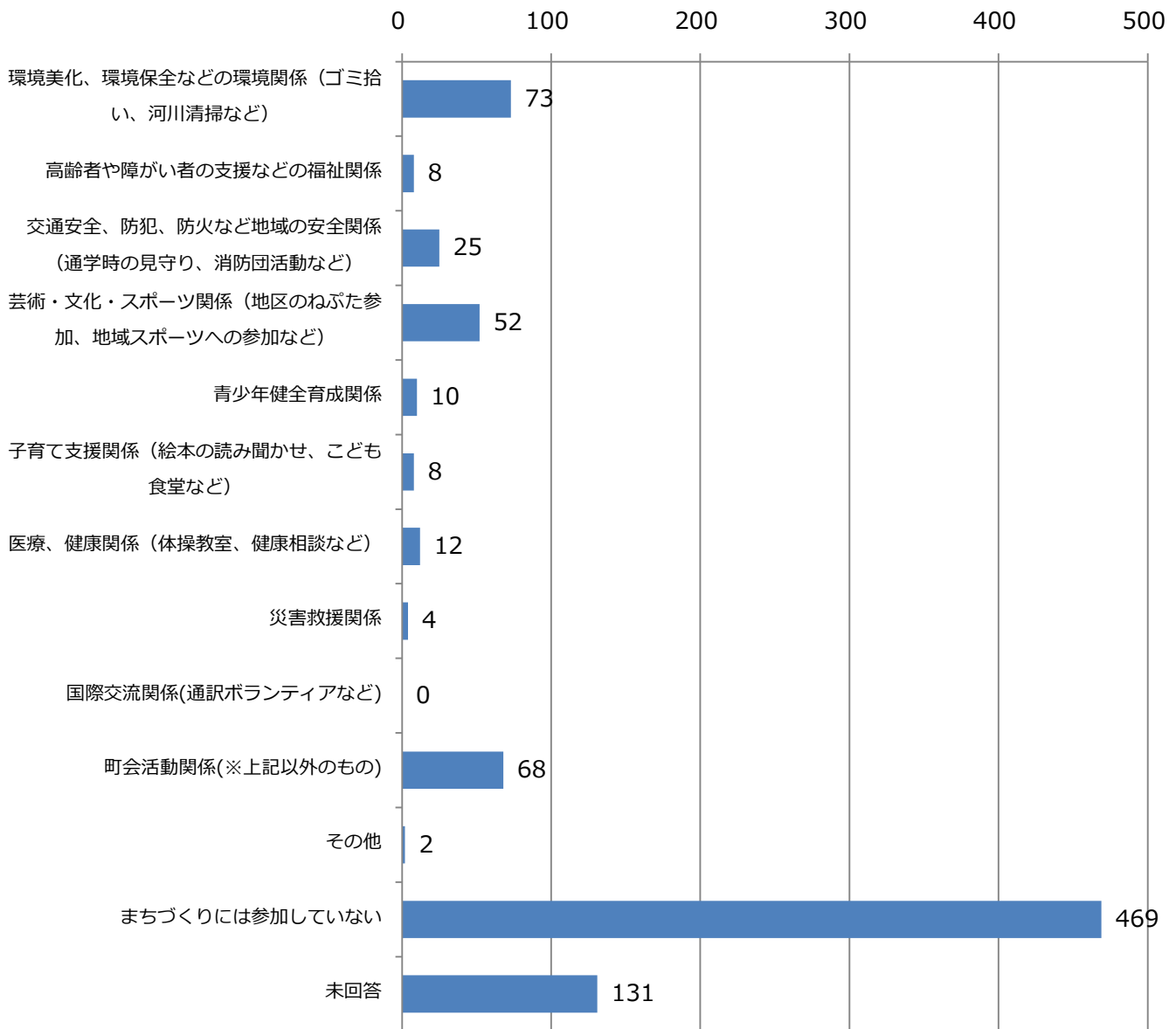


【調査結果(問4から)】

◆全体の79.5%（未回答以外では91.3%）の人が、市政運営や、市の事業に参加したことがないという結果となりました。これまで以上に、協働によるまちづくりへの関心を高め、積極的な参加を促す必要があります。

まちづくり（市民活動）への参加について

問5 この1年間で参加したまちづくりはどのような活動ですか。（○はいくつでも）



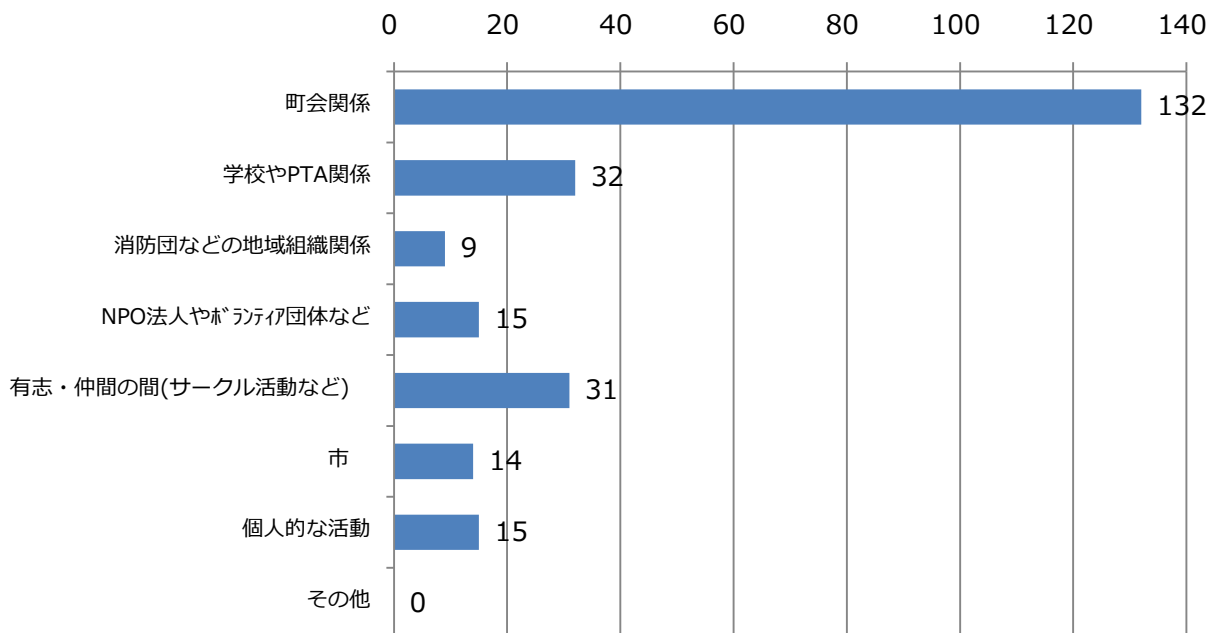
その他

家の前の道路のゴミ拾い・除雪、男女共同参画・教育・人権

【調査結果(問5から)】

- ◆全体の半分以上（全体の60.5%、未回答以外では72.8%）が、「まちづくりには参加していない」と回答しました。
- ◆参加しているまちづくりのうち、最も多かったのは「環境関係」で、次いで、「町会活動関係(※上記以外のもの)」、「芸術・文化・スポーツ関係」となっています。河川清掃や、地域スポーツなど、身近なまちづくりに参加している人が多いと考えられます。

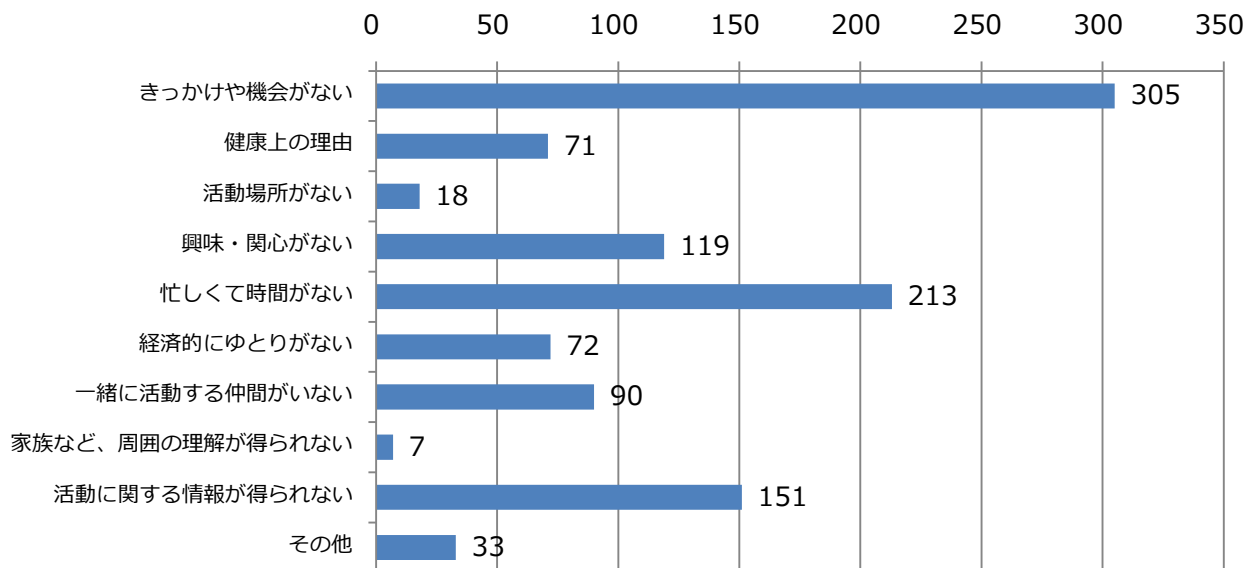
問6 参加しているまちづくりの実施主体はどのようなものですか。（〇はいくつでも）
 ※問5でまちづくり参加していると回答した人



【調査結果(問6から)】

- ◆回答が最も多かったのは「町会関係」で、次いで「学校やPTA関係」となりました。（令和元・2年度と同じ）
- ◆生活に密着した身近なまちづくりに参加している人が多いと考えられます。

問7 あなたが、現在、まちづくりに参加していない理由はなんですか。（〇はいくつでも）



その他（抜粋）

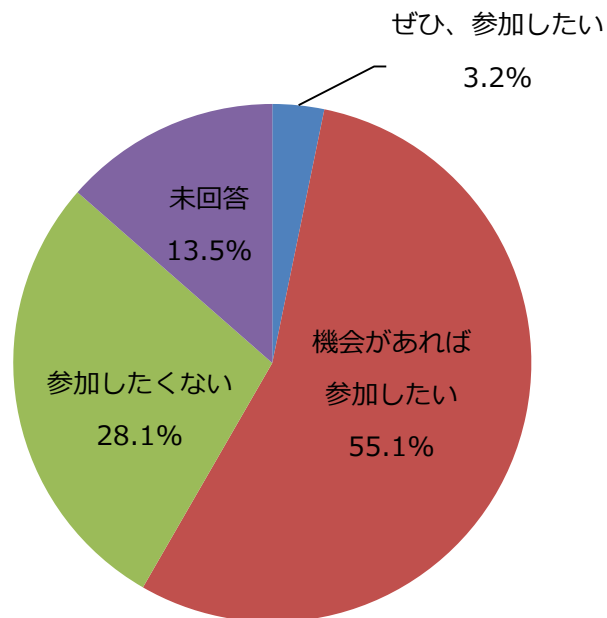
コロナのため、高齢のため、仕事の休みがとれない、子育て、精神的に余力がない など

【調査結果(問7から)】

- ◆回答が最も多かったのは「きっかけや機会がない」で、次いで「忙しくて時間がない」、「活動に関する情報が得られない」となりました。（令和元・2年度と同じ）
- ◆市内でどのような活動があるのかなどの情報発信を強化し、きっかけや機会を創出することで更なるまちづくりへの参加が図られることが予想されます。

問8 あなたは、今後まちづくりに参加したいと思いますか。
 (※現在、参加している人も回答)

回答	年度		
	R1	R2	R3
ぜひ、参加したい	27 3.5	36 4.1	25 3.2
機会があれば参加したい	423 54.7	513 59.0	427 55.1
参加したくない	216 27.9	196 22.5	218 28.1
未回答	107 13.8	125 14.4	105 13.5



【調査結果(問8から)】

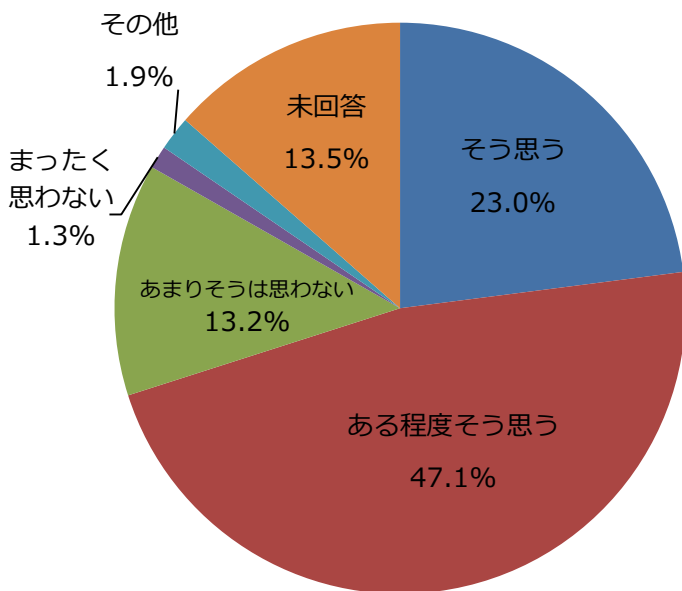
◆全体の58.3% (未回答以外では67.5%) がまちづくりに「ぜひ、参加したい」、「機会があれば参加したい」と回答しました。

まちづくりに対する考えについて

問9 市民等と行政が協働を進めていくことは、より良いまちづくりを進めるうえで有効な手段になると思いますか。

上段：回答数
下段：回答比率

回答	年度		
	R1	R2	R3
そう思う	178 23.0	238 27.4	178 23.0
ある程度そう思う	378 48.9	393 45.2	365 47.1
あまりそうは思わない	88 11.4	90 10.3	102 13.2
まったく思わない	17 2.2	17 2.0	10 1.3
その他	18 2.3	18 2.1	15 1.9
未回答	94 12.2	114 13.1	105 13.5



【調査結果(問9から)】

- ◆全体の70.1%(未回答以外では81%)が「そう思う」、「ある程度そう思う」と回答しており、多くの市民が協働することがより良いまちづくりに繋がると考えています。
- ◆協働は必要と思いつつも行動を起こせない人が多数いることが想定されるため、一步を踏み出すきっかけづくりが必要です。

問10 問9で、そう思った理由はなんですか。

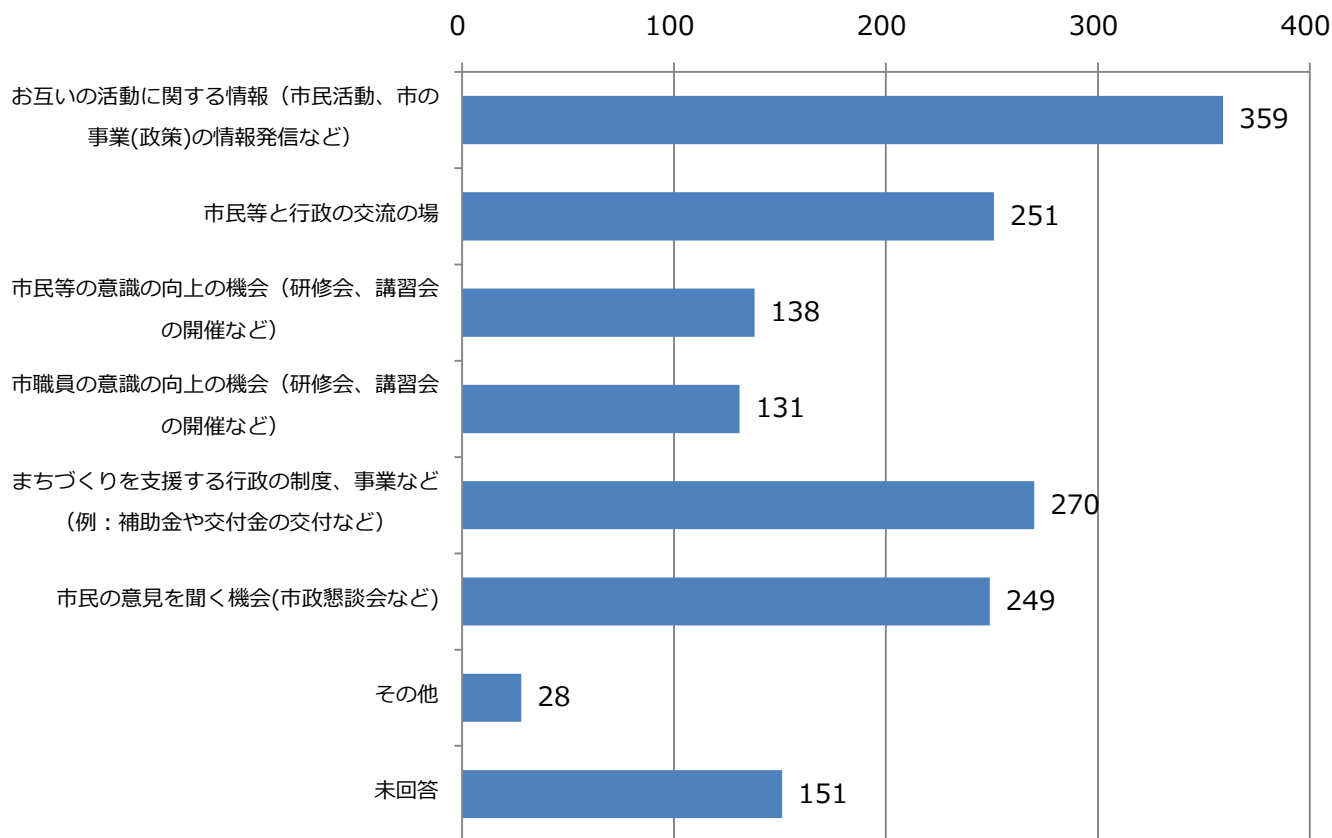
「そう思う」、「ある程度そう思う」と回答した人の意見が多かったものなど（抜粋）

- ◆情報交換、意見交換等で共有し、町づくりに生かす事が出来たらよい。幅広い年齢層の意見が重要だと思います。
- ◆市民が自分の住む町に関心を持ったり、理解が深まったりするから。
- ◆ニーズや問題意識を共有し、互いのノウハウや情報を活かすことで、課題の解決により近づくことができると思うから。
- ◆いろいろな視点からものを見ることが出来る。
- ◆自分が住んでいる町を良くするには、みんなが当事者意識を持つことが必要だと思う。
- ◆より良い暮らしにするために、それぞれの得意分野の意見や力も必要。
- ◆自分の街であるため、自分たちで考え、行動することも重要と思う。
- ◆市民等、行政がお互いの得意なことに取り組み、助け合ってまちづくりを進めた方がより効果的だと思うため。
- ◆市民一人一人の意見を尊重しつつ行政も協力していくことは、意識の向上につながる。
- ◆それぞれの役割を理解することで、幅広く活動できるから。

「あまりそう思わない」、「まったくそうは思わない」と回答した人の意見が多かったものなど（抜粋）

- ◆認知度が低い。
- ◆それぞれでやればいい。結局行政よりの進め方になりそうだから。
- ◆みんなで取りくむというイメージがつかない。
- ◆現段階で広く市民に浸透していると思わないから。
- ◆行政と市民との交流の場が目に見えていない気がする。
- ◆市民と行政の間で知識に差がありすぎて、市民がついていけないと思います。
- ◆良いまちづくりは、人によってそれぞれ考えが違うから。

問11 今後、市民等と行政が協働してまちづくりを進めていくためには何が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

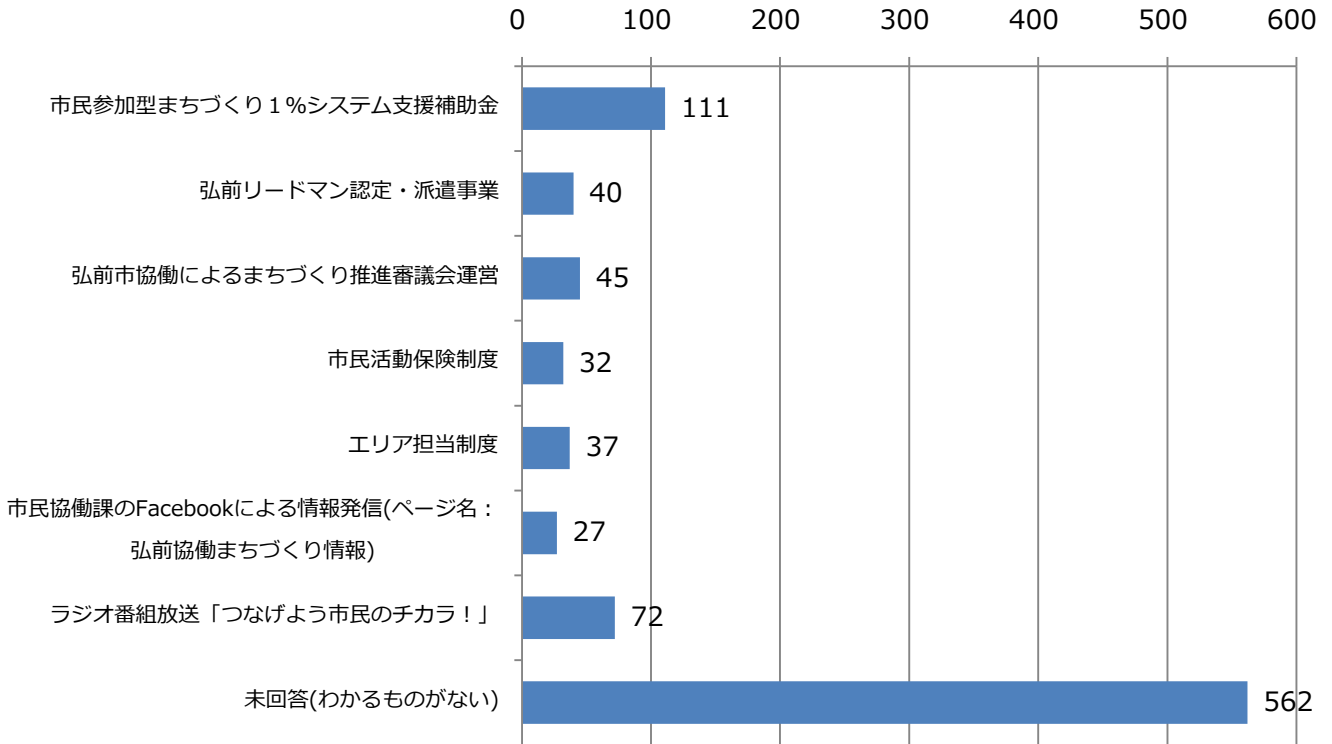


【調査結果(問11から)】

- ◆「お互いの活動に関する情報」と回答した人がもっとも多くなりました。協働を進めるためには、まずはお互いのことをより深く知ることが必要と考えている市民が多いようです。
- ◆2番目に多かったのが「まちづくりを支援する制度、事業など」であり、その次が「市民等と行政の交流の場」となりました。市民参加型まちづくり1%システム制度など現行制度の周知徹底を図るほか、市民の声、ニーズを吸い上げ今後の支援策の方向性を検討していくことが必要です。

弘前市の協働に関する取り組みについて

問12 弘前市が実施している下記の事業について、知っているものすべてに○を付けてください。（○はいくつでも）



【調査結果(問12から)】

◆最も認知度が高かった「1%システム」でも全体の14.3%という結果となりました。引き続き、情報発信に努め、認知度向上を図る必要があることがわかりました。

◆特に「Facebook」は、まちづくり関連事業の紹介やイベント等の情報発信ツールとして積極的に活用している一方で、最も認知度が低い結果となっているため、引き続き積極的に登録、活用を促す必要があります。

自由意見

情報発信の強化

- ◆ラジオはRABを聞いているので、こちらの方にも流して欲しい。TVでは八戸や青森の情報番組はあるけど、弘前の番組は少ない様に思います。
- ◆若い人にも年配の人にもわかりやすいようにして欲しい。わからないと興味もわかない。
- ◆情報の発信、参加しやすい雰囲気づくり
- ◆市民の意識改革が必要。そのためには、行政より様々な情報提供が欲しい。（SNS等を活用して欲しい。）
- ◆まちづくりに関する情報をもっと市民の目に触れることができるようにする工夫が必要である。
- ◆知らずに参加していない人も多いと思うので、積極的に情報発信があると目にする機会も増える。
- ◆一部でしか、協働というものが動いていないように思います。もっとアピールするべきでは？（ホームページ等を見ない人にもよりわかるようにした方がいいと思います。）
- ◆どれくらい進展しているのか、定期的知る機会があればよいと思う。
- ◆協働という言葉に限らず、市の制度について情報が伝わっていないことが多すぎる。知っていないと制度を利用できない。それで損している人が多くいると感じるので、行政には情報を伝える努力をして欲しい。
- ◆情報手段としてHP参照等があるが、参照できない人もいる。よって情報手段をもう少し考えて欲しい。
- ◆協働に関する取り組みについてわからなかった。何をしているかわからない。
- ◆協働によるまちづくりについての広報、アナウンス、企画、運営を数多く、長くやった方がいいと思います。
- ◆正直ほとんど知らず、意識せず初めて考えました。私のような人はたくさんいるのではないかと思います。当たり前に考え、知識があればいい環境だといいなと思いました。
- ◆今回のアンケートで存在を知った。今後は若い人に向けて広報活動を考え直した方がいいと思う。
- ◆協働というものを初めて聞きました。PRを広く行った方がいいのではないのでしょうか。
- ◆市民と行政が協働するためには、私達20代、10代の若い世代の関心、興味をひくことが重要だと思います！！SNSで情報発信して、私達も知る機会が多くなれば協力してくれる人も増えそう。
- ◆大学生や若者が利用しているSNSで積極的に情報発信していただけると内容を知る機会が増えると思う。
- ◆小さなことでも市民に配信して欲しい。
- ◆市民の意見の吸い上げがもっと必要である。その為には、もっと周知すべきである。
- ◆行政による発信力が乏しい。
- ◆情報発信の機会を増やした方がいいと思います。
- ◆自分はインターネットやテレビで情報を得るので、そこでまちづくりの情報を知れるようにお願いしたいです。
- ◆自分では新聞で色んな情報を得ていますが、行政から情報発信が市民の目にとまる発信があったらと思います。
- ◆本気になって取り組むなら、誰もが「知ってる」という取組にしないといけない。「りんご娘」は結成当初から知っているが、今では県民、市民ならほとんどの人が知っている。そのくらい認知度の高い取組をしないと！そのためには「今までは…」という考えを捨てないと創造はない。

情報発信の強化（つづき）

- ◆テレビのニュース等でも特集を組んでくれたらもっと知名度が上がると思う。
- ◆学生からの意見、必要だと思います。もっともっとせつかくやられてる事業ですから、発信をいっぱいして、興味を持ってくれるように、気軽にできるようになればいいなと感じました。※(協働の部屋)もっと皆さんに知ってもらうよう期待したいです。
- ◆ガイドブックの配付。
- ◆まちづくりに関する情報や参加方法などの情報をSNSでも発信していただきたいです。
- ◆まちづくりの協働活動について、あまりよく知らない。もっと、知る機会があっても良いと思う。ラジオはあまり聞かないので、テレビや広報紙等の利用を増やすようにして欲しい。また、広報ひろさきをもっと魅力的にして欲しい。
- ◆市民も、情報不足、不勉強だと思います。市が抱えている問題について、具体的に（ゴミ問題など）知らせて欲しい。全国の市町村との比較や、進んでいる事例などで、市民全体の意識レベルを上げれば、協力も得られると思う。
- ◆発信方法について考えて行った方が良いかもしれません。広報紙、ラジオ、FBは若年層は使用しません。幅広い年齢層にアプローチした方が良いかなと思いました。
- ◆まちづくりの情報が市民に行きとどいていないと思うので、情報の発信をしっかりとやる方法を検討した方がよいと思います。今回、アンケートがきたので、取り組みしていることがわかった。
- ◆まだあまり活動について知られていないように思います。大変良い取り組み、ぜひ続けていただきたいです。
- ◆一般的にまちづくり（道路、福祉等）はどこの市町村でもやっていることなので、あまり興味はわきにくいですが、弘前市で他市町村にない取組は、市民の参画を得やすいと思う。また、何をどう関わっていけば良いか不明なので、情報提供はして欲しい。弘前は歴史、文化の街で市民の郷土愛を他市町村に比べて深いので、市民の参画は得られやすく、関心も高いと思う。

幅広い意見の収集

- ◆どうしたら人が集まるか又、継続して集客出来る方法を市民から情報を集めてください。
- ◆今でもNPOをはじめ町づくりに関わろうとしている第三者機関は多い。それらの代表を一同に集めて町づくりサミットを開いては。
- ◆中心市街地区の住民以外からの意見が重要だと思う。
- ◆人口増加のために、弘前市外（県外含む）の人に「弘前市になぜ来ないのか？」を聞いてはどうでしょうか？内輪で考えていても限度があると思います。
- ◆市民のためのまちづくりを積極的に進めるべき。そのためにもっと意見を聞く場を作る必要があると思う。
- ◆もっと活動的な若い人からや中年層の人からご意見を出していただいた方が良いのではと思いました。
- ◆気軽に声を届ける仕組み（ライン、Eメール、ハガキ…）
- ◆まちづくりに地域の声は欠かせないと思うのですが、地域の声を吸い上げるべき町会が全く機能していないと感じます。地域の会員から意見を集めてくれるような働きかけを行政からも行ってほしいです。

交流・つながりが必要

- ◆弘前市のまちづくりは近隣の自治体にも大きな影響を与えていると思います。周辺市町村とも連携、協働、情報共有ができるとうれしいと思います。
- ◆個人の市民対市側ではなく、各町会对市側で交流とか出来れば…？
- ◆お互いがつながる場がとてまもなく減っていると思います。（コロナのせいですが）教育、福祉の面でも中止がやむを得ない状況ですが、つながりがなくなってしまうことは発信する側も受信する側も、もったいないなと感じます。
- ◆職場は青森市ですが、弘前のまちが好きなので弘前に住み続けています。同世代の友人は県外に出てしまっている人が多いので、新しく同世代の友人が欲しいですがきっかけがなく悩んでいます。20代の集まりの機会が欲しいです。
- ◆少子高齢の現状、たいしたことはできないので、隣近所助け合っただけです。
- ◆昔のように町内会や、子供会を大事にしていくべきだと思う。年配の方々と、子供との交流も必要なのではないかなと思う。アパートに住んでいると、もともとからその土地に住んでいる方々との交流がない。雪かきなどお互いに助けあえるはずなのに。

若者が集うまちづくり

- ◆学力の向上ばかりを目指している教育現場に対して、ここ青森県弘前市で生きてゆくための専門的な能力に結び付いているのか？地域の高等学校に特色があるのか？弘前地区に存在する大学に求められている役割は正しいのか？など、若者のスタートを担当する方々に求められているものを考えながら、良いものへ変えてゆく。
- ◆10代、20代、30代に魅力あるまちづくりをして欲しい。弘前に住み、結婚して、子どもを安心して育てていける様な町。
- ◆堅苦しくてつまらない。もう少しふざけてるくらいが楽しい。住人は年寄りが多いと思うが若い人の意見が生きないと県外へ出ていく。
- ◆まち作りへの意識は小、中、高の意識作りからが大切だと思う。このまちに住みたい、残りたいと思える事が根本だと思う。
- ◆若い人が集まり、より賑やかで楽しい町になったらいいです。
- ◆若い人達が仕事面で定着するような弘前であればいいなと思います。

参加できる機会がほしい

- ◆まちづくりは大切だと思います。参加できるきっかけが欲しいです。
- ◆これまでまちづくりにつながるきっかけや機会がないので、機会を増やしてもらいたい。
- ◆市民に学ぶ機会とボランティアや活動に参加する敷居を低くして欲しい。
- ◆地域の清掃、ゴミ拾いなど子どもと一緒に参加したいです。子どもにも経験させたいので短時間で参加できる機会を何度も作ってもらえるといいなと思います。
- ◆気軽に参加できる機会があれば是非検討したいです。
- ◆協働によるまちづくりについて、あまり気にした事がなく知りませんでした。これから協力できる事があたらしてみたいです。

相互に動き、協働に近づくことが大切

- ◆それぞれの立場での意見や考え方はあると思うが、同じゴールに向かって、それぞれの立場で何ができるかを考えて実現して欲しい。
- ◆様々な課題に対して市民等も行政も同じ意識を持ち（協働）互い動き（共働、協働）協働に近づくことが大切だと思う。

まちづくりに参加する余裕なし

- ◆単身世帯がもっと生活しやすい様にして欲しい。余裕がないと参加もできないです。若い人にとって魅力のある職場の種類と数が増えればいいと思います。
- ◆なかなか休日仕事だと活動に参加しづらいのが実状。

その他

- ◆弘前市を活気ある市に。あっと驚く様な、毎日見に行きたくなるまちづくり希望。
- ◆老若男女を分けることなく同じステージに集まってもらふ工夫が欲しい。
- ◆書類だけでなく行動を起こすべき（自分も含む）
- ◆今後も協働によるまちづくりを進めて欲しい。
- ◆市民活動をしている団体や個人の中には、やる気のある人もいると思うが、自分たちのノウハウをどう活かせるかわからず、または行政のニーズがわからず、協働までは辿りついていないことが多いようにも思う。市民団体等も、ひとつの資源としてうまく活かせたらいいのですが...
- ◆弘前市の封筒のデザインをこぎん刺しの模様にしてみてもどうでしょうか。
- ◆市職員の他市町村（全国）研修してまちづくりを参考にする。
- ◆市民の意見の反映が殆ど成されていないと思う。（市長の会見を見ていると）
- ◆高齢者が増え、若年層が減る現実、高齢者が足を運び、潜在能力を發揮、協力、扶助し合えるイベントや施設が機能すれば良いと思う。でも具体的な何かは思い浮かびません。
- ◆活気のある観光地など、様々見本になる地域もあるのではないかな。
- ◆市民にとって本当に必要とする事業あるいは制度、企画なのか？今一度の確認をしてください。誰のための何のためのまちづくりなのか。一部の限られた人のための事業であれば必要ないのではないのでしょうか。
- ◆市民にだけ求めるのではなく、市職員が市民のよい手本になって！
- ◆市民へのアクション
- ◆知らない事ばかりでした。これから知っていこうと思う良い機会でした。
- ◆私は弘前はとても住み良い所だと満足しています。
- ◆まちづくりとして参加したいのに、時間が取れなかったり機会がない事もあります。私はゴミ捨て場の清掃をするようにしていますが、ちょっとした事でも協働出来るのではと思います。
- ◆弘前市が実施している事業を知ってなかった事が残念に思いました。